

## 編集後記

本誌の編集に携わるのは今号で2回目となる。ご覧いただけるように、今号は掲載本数が多く、手にズッシリと重みの伝わる号となり、大変に嬉しく思う。投稿くださった先生方、そして本誌の作成にご尽力くださったセンターのスタッフに深く感謝したい。

ところで、言語学を専門とする者として、日々の生活のなかで言語に関連したいろんなものが目に留まることが多い。日本での日常生活でももちろんそうだが、海外に出かけると尚更様々なものが目に入り、大好きな海外とそして言語とが融合し、心躍る思いをする。

ヨーロッパを家族で旅行した時。その時もいつものように空港でレンタカーを借りて高速道路を走り出す。日本でも車の運転が大好きで、高速道路はもちろん、東京の住宅街の細道も楽しく車を取りまわす。車の免許証を取得したのが留学時代のアメリカ。右側通行は慣れている。

イタリアの空港から高速道路を駆り、フランス、スペインへと高速道路をひた走る。高速道路を走ると大いにお世話になるのが、サービスエリアである。日本語では英語で「サービスエリア」というがヨーロッパではなんと呼ぶか。イタリアでは *Area Servizio* という。イタリア語はよくわからないが、サービスエリアという表現がすぐ思い浮かび、理解になんの苦もないのでありがたい。フランスでは *Aire de Service* という。最初は *Aire* とは？と一瞬戸惑うが、慣れれば *Service* の綴りが英語と同じこともあり、非常にわかりやすい。スペインでは *Aria Servicio* という。これもまた、わかりやすい。

さて、休憩のために *Area Servizio/Aire de Service/Aria Servicio* に入ると、時折は給油する必要がある。ガソリンの代わりに軽油など入れたら大ごとである。レギュラーガソリンを入れたければ *Senza Piombo/Sans Plomb/Sin Plomo* という表記を選ぶ。*Senza/Sans/Sin* は英語で言うと *Without*、*Piombo/Plomb/Plomo* は *Lead*、鉛である。つまり、「無鉛」と書いてあるのを選ぶばよい。(ちなみにアメリカのガソリンスタンドでは無鉛ガソリンは *Unleaded* と表記されてある。) あらためてこうやって並べてみると、イタリア語、フランス語、スペイン語はみないわゆるロマンス語派に属し、ラテン語を親とする3兄弟ということがよくわかる。そのおかげで快適なヨーロッパ・ドライブが可能となる。

ちなみに、シェンゲン協定のおかげでこれら3国の国境はスピードを緩めることすらせず通過可能なことに改めて驚かされる。よく見ると、国境付近の高速道路の脇が膨らんでいて、往時の入国検査場の跡があったのだと思わせる。また、ユーロ(€)のおかげで両替も一切せずに済むのもありがたい。シェンゲン協定やユーロの導入は観光振興のために行ったのではないが、それでも旅行者には計り知れない便宜を与えてくれる。

昨今の学生は内向きで海外にあまり興味がないと言われるが、外国語学部で教えているとなかなかどうして、留学や旅行で海外に出ていく学生が少なくない。海外での運転を学生に勧めたことは一度もないが、それでもアメリカなどでレンタカーを運転したという学生のお土産話を聞くこともある。道路を走っていても、あるいは電車やバスの車窓からでも、いろいろなことが勉強できる。言語研究センターのCALL教室や語学視聴覚室で大いに英語やイタリア語やフランス語やスペイン語やその他の言語を勉強して世界に行き、いろいろなものを自分の目で見てみよう。もちろん私も学生の皆さんに負けずに大いにそうするつもりである。(岩畑)